

1. 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	4071700571		
法人名	有限会社 グループホーム みんなの家		
事業所名	グループホーム みんなの家		
所在地	福岡県直方市大字上頓野3635-1 (電話) 0949-26-6808		
自己評価作成日	平成 23 年 3 月 28 日	評価結果確定日	平成 23 年 5 月 31 日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL <http://kohyo.fkk.jp/kaigosip/Top.do>

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	社会福祉法人 福岡県社会福祉協議会		
所在地	福岡県春日市原町3-1-7		
訪問調査日	平成 23 年 4 月 21 日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

利用者と職員の関係が深く、家族のように接している。建物の作りも平屋建てで、家庭的な雰囲気与生活することができる。また、散歩やドライブなど外出の機会も多くとっている。
また、トイレの時間は、個別で排泄パターンを把握し、誘導している。可能な限りオムツを使用せず、トイレで排泄できるように支援している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

周囲の民家に違和感なく溶け込んだ平屋建ての事業所である。玄関に季節の花がプランターに植えられ、ちょっと立ち寄ろうかと思うような開放的な雰囲気づくりをしている。「地域の方々に気軽に出入りしてもらおう」、「明るく楽しく、真心で接する」等を目指したいという代表者の思いを、管理者や職員も理解しており、地域住民への働きかけや、利用者への個別的なサービスが提供されている。
また、職員にとっても働きやすい環境づくりを目指している。

項目番号		項目	自己評価	外部評価	
自己	外部		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
【 I 理念に基づく運営】					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎朝ミーティング後にみんなで理念を唱和し、理念にも基づき入居者を支援している。	「地域の方々に気軽に出入りしていただく憩いの場とする」を理念の一つにしており、毎日職員全員で唱和し、日々の実践の中で理念の実現に努めている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域のレクリエーションに積極的に参加している。散歩のときにも挨拶をかわし顔を覚えてもらうようにしている。また施設で慰問を開き、地域の方にも見に来てもらっている。	近隣住民が利用者を訪ねて来たり、野菜を持参する等日常的な交流をしており、フラダンス、大正琴等の事業所への慰問や、近隣住民の参加を得て避難訓練も実施している。利用者もどんど焼き、文化祭、グランドゴルフ等の地域のレクリエーションに参加している。	
3	—	○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の集まりの時に地域の方へ介護に関する相談事があればいつでも相談して下さいと伝えているが今のところ1件も相談がない。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	毎回資料を作成して経過報告など行っている。消防署や消防団の参加する時もある。防災についてアドバイスを頂いている。地域の方や家族も防災について関心をもってくださり、いろいろ意見交換している。	利用者やサービスの実際、評価等について報告や話し合いを行っている。防火訓練や避難訓練の協力や非常用サイレンの屋外設置等の意見を得て運営に反映している。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	介護保険課に出向き、経過報告など行っている。困ったときもその都度電話連絡や出向いてアドバイスをいただいている。	日常的に行政窓口に出向き、事業所の実情やサービスの取り組みを伝えながら、運営等についての助言を得ている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束禁止の具体的な行為を食堂に掲示していつでも見れるようにしている。また年に1回職場内で勉強会をしている。夜間以外は施錠しないよう徹底している。	日中は玄関や庭への出入口等には施錠をしていない。外出傾向がある利用者は、見守りや付き添い等を行っている。管理者は、禁止用語を使わない等身体拘束に関する研修を実施し、職員もその実践に日々努めている。	

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7	—	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされないよう注意を払い、防止に努めている	年に1回職場内の勉強会を実施している。食堂に虐待行為について掲示していつでも見られるようにしている。利用者にアザなどあった時はどうして出来たのか情報伝達を確実に言い、みんなが把握している。		
8	6	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	グループホーム協議会の研修に参加している。それを活かして職員会議で職員で勉強会の資料を作成して研修に参加できなかった職員へも伝えみんな理解を深めている。	家族会で制度について説明を行っている。職員に対しては、内部研修で周知しており、研修記録やリーフレット等がある。	
9	—	○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約または改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時家族や利用者へ重要事項説明書を読みながら説明をして、わからないところがないか尋ねている。加算の件は、入居時、または、加算を取り入れる前に加算内容の説明を書いて郵送し、そして家族の会で家族の前で説明し同意を得ている。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時にコミュニケーションをとって家族の方が要望を言いやすいような環境をつくる努力をしている。また家族向けアンケートを実施して意見を求めている。そのアンケート内容を職員会議で発表し、職員に伝えている。	面会時や年4回の家族会、運営推進会議等で家族から意見を聞く機会を設けている。日常的に利用者の希望に耳を傾けており、誕生日には自宅に戻る、食事に出かける等利用者の希望を聞きながら、家族の要望や協力を得て個別に実現している。	
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員は意見要望がある時は、常時、管理者へ伝えている。職員会議でも話し合いの場を設けている。管理者はいろんな意見を出来る限り反映させ、職員が意見を出せば反映させてくれると思ってくれるよう、意見を出しやすいよう努力をしている。	自己評価は、職員全員が自己評価したものをミーティング等で話し合いながら管理者がまとめている。管理者は、日常的に職員が意見を述べる機会や雰囲気作りをしており、出た意見は否定せず、出来る限り実現できるように努めている。	
12	—	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年に数回食事会を開きストレスのたまらないよう働いてもらっている。努力が認められる職員に関しては、少しであるが給与面で評価している。勤務に関しては休み希望を取り働きやすい環境をつくっている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13	9	<p>○人権の尊重</p> <p>法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮していき生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している</p>	<p>募集の広告など年齢・性別を記載していない。 職員の得意な分野を活かして、入居者に楽しんでいただけるよう考えている。</p>	<p>採用選考で性別・年齢等での差別はなく、幅広い層の職員が採用されている。定年以降も希望があれば働ける体制を整えている。 研修等職員の教育訓練への参加の機会も積極的に設けている。</p>	
14	10	<p>○人権教育・啓発活動</p> <p>法人代表者及び管理者は、利用者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる</p>	<p>業務中や職員会議で利用者に対する細やかな配慮をするように話している。職員に対しては必要以上の事は聞かないようにしている。 また上司と部下という関係ではなく同等な関係であり続けるよう努力している。</p>	<p>内部研修で人権に関する研修を実施している。管理者は利用者の人権を尊重しており、職員に対して日々の取り組みの中で助言している。</p>	
15	—	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>研修の案内があれば参加したい人は参加できるように掲示し、名前を書き込んでもらっている。業務中も職員の力量に合わせて指導し、なるべく自分自身で考えるような声掛けをしている。</p>		
16	—	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>職員はグループホーム協議会での交流があるが、まだまだしっかり交流しているとは思えない。 管理者は、グループホーム協議会のほかに、研修会のファシリテーターをしているときに同業者と交流がある。</p>		
【Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援】					
17	—	<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている</p>	<p>初期段階では、特に時間をかけて、利用者と話をして要望など聞くようにしている。 利用者から得た情報は記録をとり職員全員で把握して、かかわり関係性を深める努力をしている。</p>		
18	—	<p>○初期に築く家族等との信頼関係</p> <p>サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている</p>	<p>契約時や入居時に来られた家族の方に対しては困り事や要望を聞き出来る限り希望に添えるよう努力をしている。</p>		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19	—	○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用者、家族が何を必要としているか、しっかり確認し、その内容が含まれたプランを作成している。		
20	—	○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は利用者の事を家族のように思っ一緒に生活している。可能な方であれば、掃除の手伝いもしてもらっている。レクリエーションで昔の歌など教えてもらって、歌詞を書きとめ、みんなで一緒に歌ったりしている。		
21	—	○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族が利用者と疎遠にならないように利用料の支払いは振込にせず、支払いにきてもらって、利用者と面会して頂いている。面会時に家族と利用者の時間を作ってもらうよう、職員抜きで散歩してもらうようなプランをたてている方もいる。		
22	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ドライブの中で自宅の前を通ったり、なじみの場所を通ったりなどしている。入居前に通っていた美容室や病院など可能であれば、引き続き継続して通ってもらっている。	利用者の馴染みの人や場については利用者・家族から聴取し把握している。知り合いが事業所を訪ねてくることもあり、ドライブの帰りに馴染みの場所に立ち寄る、暑中見舞いや年賀状を出す等馴染みの関係が途切れない工夫をしている。	
23	—	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日中部屋に独りにしないように声掛けをし、みんなが集う和室にて過ごして頂いている。天気のいい日はみんなで外に出て、日光浴をしたり、毎日何かレクリエーションをするように心掛けている。		
24	—	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	亡くなられた方に関しては、家族の同意を得て、週参り・初盆・一周忌をさせてもらい、思い出話をしている。		

項目番号		項目	自己評価	外部評価	
自己	外部		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
【Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント】					
25	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	食事に関して、食堂で皆と一緒に食べたくない利用者は無理して皆のところに座ってもらわず、自分の居心地のいい空間（居室や和室や外）で好きな時間に食べてもらっている。	利用者一人ひとりの思いや希望をくみ取るように努めている。意思疎通が困難な利用者は、表情や仕草等で気持ちを察するように気をつけており、家族に意見や要望を伺いながら、本人の気持ちに沿えるように職員間で話し合っている。	
26	—	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	日常の会話の中で何気なく昔の話をして頂いている。家族に対しては、入居時にセンター方式で情報を得たり、面会時にご本人の事を聞いている。 可能な場合は入居前に生活していた家を見学させてもらっている。		
27	—	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個人ノートで利用者一人一人の行動、言葉を残している。職員はノートを見たり、ミーティングで利用者の事を把握している。 重要なことはノートだけでなく、食堂の壁にメモ紙を貼ってみんなが確認できるようにしている。		
28	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	担当職員と数名の職員、ケアマネとで話し合い、利用者の現状を確認し合っている。担当職員、ケアマネが利用者、家族と話をして希望を聞いている。	本人、家族の希望や要望を担当の職員が把握し、その他の職員の意見やアイデアと共にケアマネージャーに伝えている。主治医の意見等も加えながら個別のケアプランを作成している。モニタリングを行い、6カ月毎、もしくは、状態に変化がある場合には随時、プランの見直しを実施している。	
29	—	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人ノートで日々の様子はしっかり記録している。気づきやケア時の工夫は全員で共有できるように分かりやすく赤字や赤線で記入している。 改善点がある時はその場で話し合いをしながらみんなで考え解決できるよう努力している。		
30	—	○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	誕生会や遠方からお見えになった家族と一緒に食事を食べてもらって少しでも一緒に過ごしてもらっている。 誕生日当日は担当職員を利用者本人だけに時間を取って利用者が楽しめる計画を立て実施している。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31	—	○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	88歳の誕生日、市からのお祝いを担当の民生委員さんが施設に持ってきてくれ皆でお祝いをした。 入居してからも少し離れた病院（かかりつけ医）まで家族が送迎し利用者が信頼している先生と会って、安心して施設に帰ってこられる利用者もいる。		
32	14	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	2週間に1回かかりつけ医の往診がある。そこで利用者の様子を見てもらっている。また利用者の異常時は受診したり先生が往診に来てくれたりしている。電話にてアドバイスもらうことも多い。	訪問診療をしてきている医師を大半の利用者が主治医にしているが、他科受診は、利用者・家族が希望する病院へ受診介助している。利用開始時に緊急の受診等について家族と受診介助や情報伝達方法について話し合っている。	
33	—	○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	今のところ看護職員の配置、訪問看護ステーションの提携はない。異常時は施設長、管理者がかかりつけ医に相談し、受診・往診または指示に従っている。重度な場合は紹介状を書いてもらって大きな病院へ受診している。		
34	—	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時は管理者が付き添い病院に必要な情報を提供している。また他の職員も時間を見て面会し利用者に安心感を与えている。 退院前から病院のソーシャルワーカーと密に連絡を取り、必要な情報をもらって、施設での生活に戻ってもらう為の準備をしている。		
35	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時、家族とは終末期をどう迎えるのか尋ねている。また実際その時期を迎える時も再度確認を取り、話し合いをし、家族・医師の協力がある場合は看取りもしている。その場合、利用者、家族の希望を聞き、施設内で出来る事を職員全員で協力して行なっている。	重度化や末期についてその都度、本人、家族、かかりつけ医、職員と個別に話し合いを行っている。 また、重度化や末期についての方針については、明文化の作業に入っている。	現在、取り組まれている重度化や末期についての明文化については、チームでより良い支援ができるよう、いち早く作り上げて欲しい。
36	—	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	食堂に施設で作ったマニュアルを掲示しいつでも見れるようにしている。 職員会議でマニュアルを見ながら説明をしている。 職員は定期的に救命講習に参加している。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害発生時、近隣の方に協力してもらえよう話し合いをしている。屋外サイレンを設置し近隣の方に気付いてもらえるようにしている。夜間を想定した避難訓練も実施しており、近隣の方の参加し、利用者の避難も手伝ってもらっている。水害時のアドバイスも消防署の方から受けている。	消防署立ち会いで年に二回避難訓練を行っている。また、地域にも呼びかけ、地域住民も緊急時を想定して車椅子の動かし方などの訓練にも参加している。非常用備品についても、準備ができています。	
【IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援】					
38	17	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職場内研修でプライバシーの保護について皆で勉強している。職員は利用者一人一人に合わせた声のかけ方を意識している。声掛けに失敗した時はノートに事実を記録し他の職員が同じ様に失敗しないように全員で気をつけている。	職員採用時に、守秘義務についての誓約書を取り、勉強会で意識付けをはかっている。気にかかる場合は、その都度管理者が言葉かけ等を行っている。	
39	—	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	職員は利用者の表情や動きで今何をしたいのか察知してさりげなく声掛けし、可能な限り本人のしたい事が出来る様支援している。		
40	—	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	あまり施設の行事を決めてない。利用者のその時の様子や天候でその時何をするか決める事が多い。業務に追われがちであるが可能な限り、利用者のペースに合わせている。外に出たい人に対しては、声掛けせずに危険が伴わない限り見守りしている。		
41	—	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	美容室希望の方はお連れしている。化粧を忘れていた方には、鏡や化粧ポーチを用意して化粧を思い出すきっかけ作りをしている。洋服も本人に選んでもらっている。		
42	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	好き嫌いを聞いてメニューを決める事もある。食事準備も職員と一緒に楽しく話をしながら行っている。重度な方でも職員と一緒に包丁などを握ってみることで作ることを意識している。	食事の下準備を利用者が手伝い、同一の食事を職員も同じテーブルで摂っている。片付けも利用者が出来る範囲で手伝っている。家族からの聞き取りや残したものをチェックして嗜好を把握している。月2回医師に試食してもらいながらアドバイスを心得ており、栄養計算もしている。	

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	—	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分表、食事摂取表を活用して利用者の摂取量を把握している。少ない方に関しては、こまめに水分をとってもらっている。水分拒否の場合は、ゼリーで対応している。		
44	—	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケア表で利用者の管理をしている。毎食後歯磨きしてもらっているが、拒否される場合はマウスウォッシュでうがいでお願いしている。		
45	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄表を活用して利用者一人一人の管理をしている。職員全員で入居者の排泄パターンを把握して支援している。なるべくオムツを使わないようにし、尿意のない方でも小まめにトイレへ誘導して失禁しないようにしている。	排泄と水分摂取票を時系列でチェックして、オムツを使わない介護を目指している。利用者個々の排泄パターンとサインを見逃さずにトイレにさりげなく誘導している。	
46	—	○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分表で管理してしっかり水分を取るようになっている。また、食事は野菜中心で食物繊維をしっかり摂れるようになっている。便秘の方へは牛乳やバナナなどを取ってもらっており、歩行困難な方でも職員2人で支えながら歩いてもらい、少しでも体を動かしてもらっている。		
47	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった入浴の支援をしている	一応入浴日は決めているが、利用者の希望があれば、夜間帯以外はいつでも入れるようになっている。日中入浴された方で、夕方入りたいと訴えがあった時に再度入浴されたりもする。拒否のあった方に対しては、清拭をしている。	入浴は午前中から入れるように準備されており、午後五時頃まで対応している。入浴拒否に対しては、散歩で体をほぐして入浴に導く等の工夫がみられる。また、菖蒲湯、柚子湯等も季節に応じて取り組んでいる。	
48	—	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中はなるべく活動してもらい夜ゆっくり休めるようになっている。アロマを焚いて嗅覚からリラックスしてもらっている。		

項目番号		項目	自己評価	外部評価	
自己	外部		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	—	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬ミスを防ぐ為職員2名で確認。職員に対して利用者の使用している薬を理解してもらう為に定期的に薬の理解度チェックを実施している。かかりつけ医やかかりつけ薬剤師にアドバイスを受たり、相談をして、利用者にあった薬を準備して頂いている。食堂に薬の説明書を置いていつでも確認できるようにしている。		
50	—	○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者によっては進んで洗濯たみをされる方もいる。 天気の日には外でおやつやテーブルを出してランチをしている。 目的なくドライブすることで気晴らしにもなっている。季節によって遠方まで花見に行ったりもしている。		
51	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	時々施設の買い物に同行してもらっている。 天気の日には散歩、ドライブに出かけている。 重度な方が施設内に籠ることがないように優先的に外にお連れしている。 オーナーが比較的軽度な方を連れて温泉1泊旅行に行く事もある。	天候に応じて屋外で過ごせる時間を持つように努めている。周辺の公園への散歩、季節の花見見学、一泊旅行も年に一回行っている。 ドライブ中には利用者のゆかりのある場所を通る等の気配りをしている。	
52	—	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	今のところ、お金は施設が管理し、利用者が直接使う事はない。		
53	—	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	レレションで年賀状・暑中見舞いのはがきを書いて家族、知人に送ったりしている（職員はそのお手伝いをしている）。		
54	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間である和室に温度計を置いて温度管理している。床の間に花を置いて季節を感じてもらっている。西日が良く入ってくるのでカーテンで明るさをコントロールしている。	木造建築で、昭和の雰囲気が出ており、利用者が落ち着ける共用空間づくりをしている。神棚、床の間に仏画を配置し、掘りごたつでくつろぐことができる。	

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
55	—	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	和室で独りになれない時は食堂で過ごしてもらっている。また、居室で過ごしたい方に関しては、無理に共用空間に居てもらわず本人の好きなようにしてもらっている。以前は気の合う方同士での席の配置をしていたが、重度化が進み、以前のように特定のペアみたいなものはなくなってきた。		
56	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で使い慣れた物を持ってこれる物は、持ってきてもらっている。家族と写った写真や施設での楽しそうな写真を掲示して利用者にとって安心して過ごせるよう工夫をしている。	使い慣れた調度品を自宅から持ち込んでいる。家族写真や自らが描いて文化祭に出品した絵画も貼られており、個性が感じられる。	
57	—	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能やわかる力を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室の入り口に利用者と担当職員のツーショット写真とネームプレートを準備しており自分の部屋とわかるようにしている。トイレの入り口は表札をかけている。		

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果	
自己	外部		(該当する箇所を○印で囲むこと)	
V サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）				
58	-	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：25, 26, 27)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者の
			<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいの
			<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいの
			<input type="radio"/>	④ほとんど掴んでいない
59	-	利用者と職員と一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：20, 40)	<input type="radio"/>	①毎日ある
			<input type="radio"/>	②数日に1回程度ある
			<input type="radio"/>	③たまにある
			<input type="radio"/>	④ほとんどない
60	-	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：40)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
			<input type="radio"/>	④ほとんどいない
61	-	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：38, 39)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
			<input type="radio"/>	④ほとんどいない
62	-	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：51)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
			<input type="radio"/>	④ほとんどいない
63	-	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：32, 33)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
			<input type="radio"/>	④ほとんどいない
64	-	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目：30)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
			<input type="radio"/>	④ほとんど掴んでいない

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果	
自己	外部		(該当する箇所を○印で囲むこと)	
V サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）				
65	-	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 21)	○	①ほぼ全ての家族と
				②家族の2/3くらいと
				③家族の1/3くらいと
				④ほとんどできていない
66	-	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：2, 22)	○	①ほぼ毎日のようにある
				②数日に1回程度ある
				③たまにある
				④ほとんどない
67	-	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	①大いに増えている
				②少しずつ増えている
				③あまり増えていない
				④全くいない
68	-	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	①ほぼ全ての職員が
				②職員の2/3くらいが
				③職員の1/3くらいが
				④ほとんどいない
69	-	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2/3くらいが
				③利用者の1/3くらいが
				④ほとんどいない
70	-	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	①ほぼ全ての家族等が
				②家族等の2/3くらいが
				③家族等の1/3くらいが
				④ほとんどいない